

長期ビジョン

RAIZNEXT Group V-2032

2021年5月14日

レイズネクスト株式会社

代表取締役社長 毛利 照彦

目 次

1	はじめに	-----P.3
2	レイズネクストグループ長期ビジョン (RAIZNEXT Group V-2032)	-----P.4
①	策定の背景(中長期的な事業環境の変化)	-----P.5
②	計画の方向性(2032年のありたい姿を目指して)	-P.6
③	長期ビジョン実現のための基本方針	-----P.8
④	注記	-----P.9

1 はじめに



代表取締役社長

毛利 照彦

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、当社は2021～2024年度を対象とする「第2次中期経営計画－RAIZNEXT SYNERGY POWER」を策定いたしました。当社は、2019年7月に経営統合によりレイズネクスト株式会社として生まれ変わり、その第1次中期経営計画において「シナジー効果創出のための融合」を掲げ、この2年間で、制度統合・社内融和に取り組んで参りましたが、本中期経営計画が本格的な「シナジー効果の創出期間」となりますので、ここからレイズネクストは本当の意味でスタートを切るのだとも言えます。

また、当社グループは本年3月に、「2032年度（第4次中期経営計画の最終年度）までに当社グループがやりたい姿」を描いた長期ビジョンとして、「**RAIZNEXT Group V-2032**」を策定いたしました。「**V**」の文字には、やりたい姿(**V**ision)の他、より顧客価値の高い(**V**aluable)サービスを提供できる会社、活気(**V**itality)があり従業員がやりがいをもって働ける会社、といった想いも込めています。

これまで当社グループでは、長期ビジョンというものを定めてきませんでしたが、政府が2050年までに実現を目指すとしているカーボンニュートラル社会の到来や、デジタル革命の進展等を見据え、変革する新時代に備えた準備を早急に進めていく必要があると考えました。

したがって、本中期経営計画は、長期ビジョン達成のためのファーストステップともなります。

エネルギーに携わる企業としての社会的責任を全うし、最大限の顧客価値を提供しながら、目指すべき姿を全てのステークホルダーの皆様と共有し、共に発展していくことが当社グループの使命と考えております。

引き続き末永いご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

2

レイズネクストグループ長期ビジョン (RAIZNEXT Group V-2032)

① 策定の背景（中長期的な事業環境の変化）



② 計画の方向性（2032年のありたい姿を目指して）

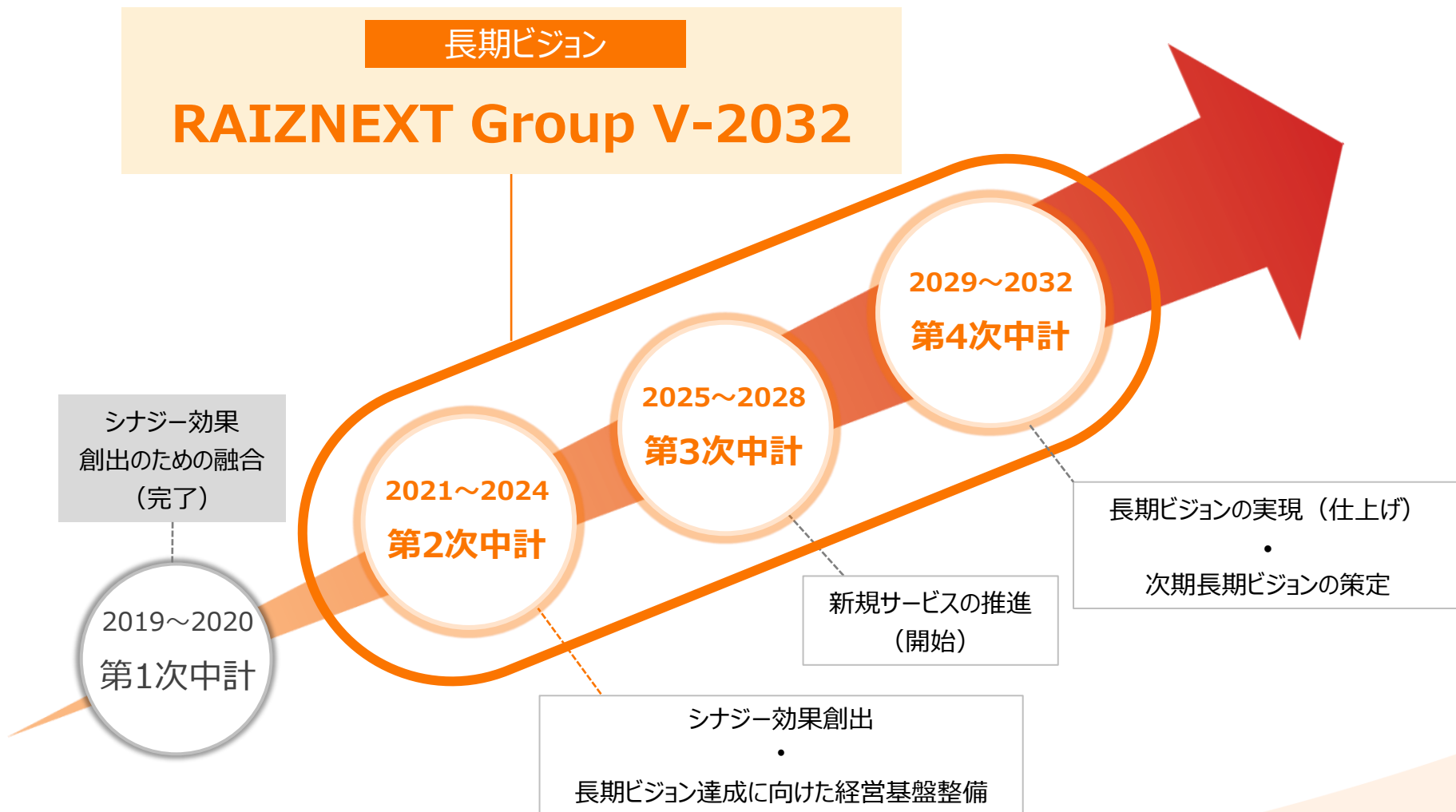
長期ビジョン

RAIZNEXT Group V-2032

変革の時代に、進化したプラントサービスを

- エネルギーに携わる企業としての社会的責任を全うし、カーボンニュートラル社会の実現に貢献します。
- 常に最新の技術を導入・洗練し、メンテナンス・エンジニアリングの両輪でパートナー企業と共に最大限の顧客価値を提供し続けます。
- 人々の暮らしを支えるプラントの安定稼働を守る柱であるというプライドを持ち、従業員がやりがいをもって働くことのできる会社を目指します。

② 計画の方向性（2032年のありたい姿を目指して）



③ 長期ビジョン実現のための基本方針

基本方針

主要項目

貢献するSDGs項目

経営基盤の進化

レイズネクストグループとして
持続的に社会へ貢献していくため、
グループ全体の経営基盤の進化を図る

DXの推進

人材・働き方

協力会社

ガバナンス

ESG/SDGs

新規事業・分野・サービスへの挑戦

2050年までに到来する
カーボンニュートラル社会に備え
新たな事業・分野・サービスへ挑戦し
その社会実現に貢献する

再生可能エネルギー分野等への取組み

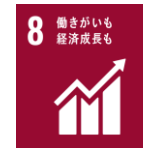
新規事業・新規サービスの創出

既存事業構造の最適化

石油製品の需要減少等による
石油精製・石油化学設備の縮小に鑑み、
既存事業構造について最適化を図る

石油関係/化学分野の受注・シェア拡大

最先端技術の導入



④ 注記

本資料中の経営方針、戦略、将来の見通しに関する数値につきましては、現時点で入手可能な情報から当社経営陣の判断に基づいて作成されております。

この中にはリスクや不確定な要因も含まれており、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、顧客動向等により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。